

# 令和5年度 第4回羽黒地域振興懇談会 会議録

1 日 時 令和6年3月12日(火)午後1時00分～午後2時40分

2 場 所 広瀬地区地域活動センター 講堂

3 出席者 委員 会長 百瀬清昭、副会長 阿部良一、五十嵐満委員、丸山三喜男委員、堀誠委員  
加藤省二委員、榎本光男委員、小南孝子委員、三浦美津子委員、齋藤一志委員  
羽黒庁舎支所長 伊藤敦、総務企画課長 成沢結花、市民福祉課長 山口えみ、  
産業建設課長 上林喜博、総務企画課長補佐 成澤紀美  
総務企画課主任 山本務  
本所 地域振興課地域振興専門員 齋藤眞一

## 4 会議次第

1. 開 会
2. あいさつ 百瀬会長
3. 報告  
(1) 総合計画後期基本計画(案)について
4. 意見交換会  
(1) 羽黒地域振興計画(最終案)について  
(2) 羽黒地域振興施策の全体像について
5. その他 伊藤支所長
6. 閉 会

## 5 会議資料

- ・【資料1】第2次鶴岡市総合計画後期基本計画(案)羽黒地域抜粋
- ・【資料2】地域振興懇談会等の意見と総合計画後期基本計画(案)への反映状況
- ・【資料3】羽黒地域振興計画2024年度▶2028年度
- ・【資料4】羽黒地域振興計画体系図

## 6 報告要旨

- (1) 総合計画後期基本計画(案)について (羽黒庁舎総務企画課課長補佐説明)

---

### 委員より意見・質問

---

#### 【委員】

堆肥散布量について、増やすように言われ直したのが1,964tとの事だが、算定方法は、  
羽黒のたい肥センターで作れる量はどのくらいか。  
堆肥の需要が増えた時、供給は間に合うのか。

【産業建設課長】

2022年の現状値の1,939tをベースに、年間1ha分ずつの増加、それに必要となる堆肥量として25tをプラスし1,964tという数値を設定した。

堆肥の製造量は令和4年で2,513t、令和3年で2,448tという実績であり、目標値について当面大丈夫だという認識だ。ただ、畜産農家が減少している傾向で、将来的に原料の確保が問題になってくるが、当面は確保できると考えている。

【委員】

前期から今までは大分増えているが、これからは増える面積は少ないということか。

【産業建設課長】

夏の高温障害を受け、土づくりが大切だという観点が高まっており、そういう面では増加の可能性があると思う。ただ、ただ、堆肥散布の主力の水稲が、需要の関係で毎年、目安の配分が下がってきているというマイナス要因もある。

土づくりの大切さに力を入れ、目標値をクリアするよう働きかけを行っていきたい。

【会長】

異常気象に対応していくため地力を高めていくのは非常に重要だ。国が緑のシステム戦略ということで有機農業を進めていく動きがあるが、堆肥原料は高いので、地域の資源をうまく活用し、農産物の残渣等、色んな地域資源を活用して有機質を増産することは非常に大事な事である。

7 意見交換会

- (1) 羽黒地域振興計画(最終案)について (羽黒庁舎総務企画課課長補佐説明)
- (2) 羽黒地域振興施策の全体像について (羽黒庁舎総務企画課課長補佐説明)

---

委員より意見・質問

---

【委員】

月山高原「黄金色の麦畑」創出事業とあるが、どういった事業か。

【産業建設課長】

中身の詳しい部分は岡部勝彦さんの意見を聞きながら進めてきた。委員からも販売の支援をしてほしいという話を聞いていたので、予算要求させていただいている。

具体的には小麦売込みのための旅費、交通費、サンプル代。地域内での取り扱いを増やすための、小麦を使った料理の試食会の開催。HPやPR動画作成、パッケージ、シール作成といった内容になっている。

【委員】

大変歓迎する。今、小麦はほぼ我々のグループがやっているが、スマートテロワール連絡協議会という名前前でちょっとやっている団体へも市から金が出ている。そちらに又資金が流れたらと思い聞いた。

**【産業建設課長】**

今の話は、何年か前からカルビーの元会長が提唱したスマートテロワールをこの地域で実践していくために、山大が寄付を受けて取り組んでいるものに対し、市からも負担金という形だと思ったが、資金を出し、会議に市も入り、地域での循環の体系を確立しようという動きだ。直接担当していないので分からないが現在も続いている。

**【委員】**

泉地区地域活動センターとコミセンの再整備について、泉地区は昨年要望書を提出したが、2つは無理だという話もあり、羽黒コミュニティセンターの整備検討委員会の立ち上げを早くしてもらいたい。

**【総務企画課長】**

羽黒コミュニティセンターの機能の検討については、4月の区長会を経て、検討委員を集め、検討を進めていきたいと考えているので、今しばらくお待ちいただきたい。

**【委員】**

交通弱者の問題で、福祉バスも少ない状況で福祉協議会で提案があり、養護施設の車を貸しても良いという話が出ている。条件は色々あると思うが、具体的に早く進めるようお願いしたい。

**【市民福祉課長】**

福祉バスについては、社会福祉協議会のバスが廃止になり、5年度6年度については、市バスを並行利用して運行しているが、桜ヶ丘から、車の空いている時間に福祉活動に使用しても良いという提案をいただき、4月になったら検討するという話になっている。かみじ荘からも少し話がありそちらも検討していきたいと思う。

**【委員】**

人口減少が大変な時期だ。羽黒小学校の新入生が22名で、ますます減少すると思ったのは婚姻届が出ないということ。誰がどのように解決すればよいか分からないが考えていただきたい。高齢化していき少子化も進むので宜しく願いしたい。

**【支所長】**

人口減少については、若者の婚姻も出生数の減少も、社会全体が抱える問題が、我々の鶴岡市にも直面しているということだと思う。手向地区では2030年くらいには65歳以上の高齢者が5割を超えるという推計もでており、私どもとしてもそういった大きな課題をクリアしていくよう考えてきた。私は昨年羽黒地域に来て、羽黒はポテンシャルが高い地域だと感じているので、どのように他地域との差別化を図り、他地域から人を呼び込むか、若い人に来てもらうような地域に育てていかなければと思っている。今回の総合計画、地域振興計画の中には、そういった気持ちを込めて作った部分もあるので、新年度、これまでの事業と合わせて、新たな事業を行っていく。

皆さんと一緒に力を合わせながら取り組んでいこうと考えている。

### 【地域振興課専門員】

婚活対策も地域振興課で実施している。

つるおか世話焼き委員会というものを組織している。お見合いを世話する方々の団体で、婚シェルジュと呼んでいるが、市内で30人くらい活動しており、羽黒地域にも2人ほど婚シェルジュの方が居る。こういった方々が日々お見合いをセッティングしている。

そのほか、市の施策として結婚新生活支援補助金というのがあり、結婚した夫婦が共に、29歳以下なら60万、39歳以下なら30万ということで、アパート代や引っ越し代を支援する制度であり、国の補助金を利用して実施し、施策を進めている。

### 【委員】

前回、免許返納時のゴールドパス利用について、各家庭にチラシを配布いただき、速やかな対応うれしく思う。

羽黒地域のおしごとみ〜つけた事業だが、子供たちが地域にどんな仕事があるか知るのには、地元を知るという意味でも良い事業だと思った。

羽黒地域ふらっといっぱ事業だが、高齢者の方は外に出ないと要介護度が上がるばかりだということだった。婦人会も食改も地域の手助けをし、協力して進めていきたいと思っている。

### 【市民福祉課長】

ふらっといっぱ事業だが、事業の趣旨は、家に引きこもっている要支援者や孤独な方を対象に、社会貢献事業に参加し、自己肯定感や自信をもつていただき、社会とのつながりを持って欲しいという事業で、高齢者も対象になるかもしれないが、対象としては別で考えている。

### 【会長】

東京からのお客さんが、加茂水族館に初めて行ったが、説明や応対が丁寧で、こんな水族館は初めてだと言っていた。手向にも松ヶ岡にもガイド組織があると思うが状況はどうか。

### 【産業建設課長】

詳しい資料は無いが、今活動している団体は、いでは観光ガイドの会というのがある。いではの参道、山頂、それらの案内をメインとしており、今年度は卯年ということもあったかもしれないが多かったという状況は聞いている。同じく月山観光ガイドの会がある。弥陀ヶ原の花畑の案内が主になるが、希望があれば山頂までガイドする方もいるという状況だ。出羽三山地区では、その2つの団体がガイドとして活躍していただいている状況だ。

松ヶ岡の方は把握していないが、ガイド育成に向かっていると思うし、支所長からも観光協会で松ヶ岡のガイドも育成すべきではないかと言われており、その辺も念頭に入れて進めていきたい。

### 【会長】

出羽三山の方は、インバウンド対応は可能か。

## 【副会長】

英語の方は居る。アジア系も居たような気がする。

月山に関しては、講中の方やお参りの方が逆に対応してくれている。先達さんになると講中の方が多くなってきているので、ガイドがあえてやらずとも参拝客の中にいる。神社としても問い合わせがあれば対応するが、幅広く受け入れはしている感じはする。

## 【委員】

松ヶ岡では、ずいぶん前に観光客向けのガイドということで、組織を立ち上げ、勉強会を開催したりしたことはあったが長続きはしなかった。ガイドの高齢化が進んでいるなか、その高齢者も現役の農家であるため、日中のガイドは難しく、全市に呼びかけガイドをする人に来てもらった時期もあったが、中々長続きしなかった。観光客が来た時、一緒に回るガイドが居ないというのが現状だ。現在、市と協議し、ガイドの養成を進めていく計画にはなっている。

ただ、インフォメーションセンターがあり、そこで常駐の方が施設の簡単な説明を行っている。

多言語化に関しては、施設内をスマホで説明を聞きながら回れるというものがあり、多言語化で説明してもらえる機器を貸し出したり、自分のスマホで聞いてもらったりしている。

外国からの観光客もポツポツ見えるが、施設の概要や絹の歴史などは説明できている。

## 【委員】

大分まとまっていると思ったが、色々なことが「支援します」「検討します」になっており、近々の課題は速やかにやって欲しい。

二次交通についてだが、市営バスについて今後検討しますという文言で綴じているが、具体的にいつまでにこれを行うとか、羽黒山と松ヶ岡を結ぶ二次交通バスとか提案等あると思う。そういったものをどんどん推進して欲しい。

資料4のまちづくり未来事業について、今後5年間これが続いていくのか。

## 【総務企画課長】

まちづくり未来事業については、事業ごとに違っており、ベースは3年となっている。長く続いているものもあるし、ブラッシュアップして次の事業にというものもある。3年がベースで5年ではない。

## 【委員】

文書を読んで気になったところが何点かあったので、後で指摘させていただく。

こういった計画づくりは労力を使うし大変だと思うが、それ以降の実践の部分が一番大事だと思う。実績を作ることに重きを置いて力を注いでいただきたい。

路線バスについて、利用率を上げるのは大変でなかなかうまくいかないし、課題もある。今後免許返納により増えていく救えない部分の解決策も考えていかなければならない。

災害に関して、庄内は備えに関して手薄だ。災害が少なくても良い場所だが、実際におきると弱いと思われるので、災害が起きた時に対応できるよう、災害対策の目標も決めておかないと。今後の計画策定に配慮いただきたい。

**【委員】**

自主防災組織について、行政で半強制的に作らせた方が良いのかもしれない。

主な施策のアの(3)に映画ロケがあるが、映画ロケを誘致してくる等、主な施策に取り上げるなら、取扱を今後検討していただきたい。

**【市民福祉課長】**

防災に関して個別避難計画を作成することになっており、今年度、手向地区 10 集落で支援が必要な方が同意書を記入し、支援する方に情報提供し、災害があった場合助けてもらえるよう、個別避難計画というものを手向地区の方々が協力して作成した。手向地区を手本とし、そういったものが全集落に広がり、防災意識が高まっていけば良いと思う。危機感を持つのは中々難しいが、個別避難計画は作成することになっているので、今後その方向に向かってほしい。

**【委員】**

地元に住居する若い人たちを地区内、地域内で引き上げる事業が大切だと思う。地区に対しても色々な支援をお願いしたい。

**【委員】**

被災した自治体を見ると、自治体が準備した食料や簡易なトイレ、毛布等、すぐに出てくるイメージがあるが、そういう備蓄関係を市として行っているのか。

**【総務企画課長】**

何が置いてあるかまでは把握していないが、各自治振興会にも、学校にも災害用資材はある。全員に過不足なくとは言えないと思うが、資材は準備してある。

**【委員】**

唯一ここに避難したことがあるのが我々と黒瀬だと思う。

板の間では年寄りは大変であり、畳があり、座布団を敷けば寒さは凌げる。食料も、実際に配布されたのは、ビスケットや乾パンなどで、後は各集落でコンビニに行ったりして準備した。許可があれば炊事場で食事を作ることもできたが、どこまでやって良いのか分からなかった。その辺の対応をしてもらいたかった。

**【総務企画課長】**

寒さ対策では、講堂に敷き詰められるほどではないが、アルミ製のマットが備えてあるので少しはマシかと思う。徐々に増やしていくよう進めていきたい。

**【委員】**

家に帰りたいが帰っていけないと言われた。帰宅の判断も早くしてほしい。

【総務企画課長】

警報が出ている状況で行政が帰って良いとは言えない。そこはご理解いただきたい。

【会長】

正月の地震の時、旧いこいの村のところに車が5~60台避難してきた。寒い日だったので、暖房とトイレと水が大事だった。また、避難解除になっていないのに9時ごろに帰って行ってしまい、避難解除のタイミングは難しいと感じた。

第四地区の自治振興会では新年研修会で防災研修会を行い、庄内総合支庁の担当者が来て生々しい話をしてくれた。うちの集落でも婦人会等交えて避難訓練をしたことがあるが、人が変わると行わなくなる。自主防災会が区長をトップとして、恒例行事としてやっていかなければと感じた。

【委員】

ゆぼかについてだが、客が相当入っているが宴会場に行っても食べるものが何もない。施設をもっと有効に使い、夜、宴会で使う見通しを立てて欲しい。

【支所長】

現在、ゆぼかの宴会の再開については検討を進めており、取締役会が今週の金曜日にあるため、詳細を伝えることは控える。

私どもも早期の再開に向け取り組んでおりますので、今しばらくお待ちいただきたい。

【委員】

職員が辞めて食堂が経営できない状況が続いており、募集をしても人が集まらないということで、それに対してどうするかが今度の取締役会でも話題になると思う。

【副会長】

人材育成という意味で、おしごとみ~つけた事業というのは魅力的に見える。何処でも一緒に、後継者というの一番仕事の励みになると思う。

随神門前的大江坊が空き家になっていたが、宿坊を引き継ぐのは容易ではなかったと思うが、他所から頑張っていこうという人が出て来てくれた。これを機に宿坊をやりたい、商売をやりたいという人が増えてくれればと思う。

他所から来る方が増えるのも良いが、地域の魅力を理解して定着してもらい、そういった方々が来てくれれば羽黒の未来も明るい。

【会長】

他県からの就農者のために空き家を探している。数字上は空き家は沢山あるが、住めるようなものが少ない。鶴岡全体で住める空き家の情報ネットワークは出来ないか。

【地域振興専門員】

空き家ではないが、移住定住の取り組みを行っている。

首都圏で行われている移住フェア等に行き、鶴岡市を紹介しているし、県と連携し、移住者の方に米・みそ・醤油 1 年分という支援とか、移住支援金ということで補助金等もある。これは国、県の支援を受け、例えば夫婦と 18 歳未満の子供 2 人、計 4 人で移住し、就職すると 300 万が支給される取り組みである。

【会長】

Uターンした家族でも大丈夫か。

【地域振興課専門員】

要件として、通算 5 年以上首都圏に在住等がある。事前相談が必要な場合があるので、詳しくは地域振興課の移住担当に相談いただきたい。

【会長】

仙台や関西でも大丈夫か。

【地域振興課専門員】

仙台、関西圏対象となっていない。米・みそ・醤油は大丈夫である。

【会長】

もっと広げた方が良い。

【地域振興課専門員】

ご要望として承る

【会長】

地域振興計画の部分修正について、最終案を私が確認するということによろしいか。

一同異議なし

以上。